

平成 26 年度
岩見沢市議会 他都市調査報告会
報告書



- I. はしがき
- II. 開催概要
- III. 報告内容（当日配布資料）
- IV. 参加者からの質問・意見と回答
- V. アンケート結果
- VI. 平成 26 年他都市調査の調査地及び調査項目一覧

I. はしがき

平成 26 年 11 月 16 日、岩見沢市議会は初めての議会報告会となる「他都市調査報告会」を実施致しました。

市民に開かれた議会を検討するにあたり、議会の活動等について報告する場や市民と直接意見を交わす場の設置について議論を重ねた結果、初回となる本年は四つの常任委員会が実施している他都市調査（行政視察）の報告を通じて岩見沢市が抱える課題を浮き彫りにし、また各委員会として一定の見解を示すことで、議会活動への理解促進とともに市民意見の反映に努めるよう試験的に開催した次第です。

来場された皆さまからのアンケート結果（後掲）から、今後も報告会の開催を望む声、必要とする声が多数寄せられた一方、運営上不慣れな点も多く、開催の周知不足や報告方法など含め反省すべきところが多かったのも事実と受けとめております。

今回アンケートでお寄せいただいた声をしっかりと受け止めて反省すべき点はしっかりと反省・改善し、また市議会だよりなどを含めて総合的に検討し、より市民に開かれた議会を目指して次の期へ繋げてまいりたいと存じます。

Ⅱ. 開催概要

- (1) 日時 平成26年11月16日(日) 14:00～17:00
- (2) 場所 岩見沢市生涯学習センターいわなび 研修室
- (3) 事業内容 各常任委員会が実施した他都市調査の目的や調査内容を岩見沢市が抱える課題や市政への反映等を交えながら市民に報告し、意見交換。
報告時間は一常任委員会30分とし、最後に議会として全体質疑を実施。
- (4) 当日のスケジュール
1. 開会挨拶 議長
 2. 主旨説明 議会改革特別委員長
 3. 総務常任委員会 報告・質疑応答
 4. 民生常任委員会 報告・質疑応答
 5. 建設常任委員会 報告・質疑応答
 6. 経済常任委員会 報告・質疑応答
 7. 全体質疑
 8. 閉会挨拶 副議長
- (5) 出席議員数 26人
- (6) 来場者数 26人(うち報道関係者3人)
- (7) アンケート回答者数 23人

〔調査結果／結びに〕

いつまでも暮らしたい、そして誰もが暮らし続けたい街にするためには、どうしたらいいのだろうか？

- ① 自分たちの街のことをよく知る
- ② 街の魅力について自信を持って自慢ができる
- ③ 一人ひとりが住み続けるという共通した意識を持っている
- ④ 地域特性を活かした魅力ある街づくり
- ⑤ 中小企業が安心して雇用できる

先進都市が行っている定住促進対策は、既にどこの自治体でも類似した内容の事業に取り組んでいますが、ほとんどの自治体では、その取り組みは定住対策に関連させて実施されているのではなく、それぞれの部署が単独事業として実施する従来型の縦割り行政手法であります。

今回調査した2市では、各部署の事業をできる限り横断的に結びつけており、各部署が行う事業が定住対策を視野に入れて実行されているなど総合的に推進することで成果を上げておりました。

また、地元の人には自分の住む地域の魅力に気付かないというのをよく耳にしますが、地元の良さを知り、愛していることが地元の魅力を高める重要なキーワードであり、それに向かって市の職員が率先して努力している事に共感を得ました。

人口減少社会への対応、そして我が岩見沢市が更に魅力ある街として発展するためには、市役所をトップランナーとして、市民、事業者、議会がそれぞれの立場で知恵を出し合い、前向きな議論を繰り返し、汗をかくという積極的な姿勢によって活力ある街が生まれると思います。

その活力ある街は、現在住んでいる人の満足感を高め、これから住もうとする人には大きな魅力となることでしょう。

国立社会保障・人口問題研究所のデータでは、近い将来確実に人口減少社会が到来すると予測していますが、既に各自治体では多かれ少なかれ人口減少の波が押し寄せ始めていると危機感を高めています。

しかし、将来予測は、あくまでも全国一律の予測であり、地域特性は加味されていないことが反対に可能性につながると、各自治体では自分たちの魅力を高める努力を始めています。

私たちも、住みよく魅力ある岩見沢を子どもたちに胸を張って引き継げるように、市民の皆さまと一緒に更なる努力をして参ります。

民生常任委員会 他都市調査報告書

長野県松本市 「健康寿命延伸都市・松本の取り組み」について

平成26年10月9日

仁志鉦一委員長
笹島清一委員

田中和宏副委員長
宮下 透委員

氏家一夫委員
峯 泰教委員

上田久司委員

選定理由

食生活の改善や医療技術の進歩に伴い、今や平均寿命は男性ではおよそ80歳、女性ではおよそ87歳となっており今後も更に延びることが予想されております。また、少子化に歯止めがかからない人口減少社会においては、高齢化率も更に延びることが予想されます。そのような社会構造の変化に伴い、健康な期間だけではなく、不健康な期間も延びることが予想されることから、市民の健康づくりの一層の推進を図り、平均寿命の延び以上に健康な状態の期間（健康寿命）を延ばすことは、個人の生活の質の低下を防ぐ観点からも、社会的負担を軽減する観点からもとても重要であると考えます。

また、当市においても本年度、健康増進計画策定を進めるなど、健康寿命を延ばすべく、健康増進事業に積極的に取り組んでおります。

そこで、この健康な状態の期間（健康寿命）を延ばすことに先進的に取り組んでいる都市を調査研究し、当市の施策に反映すべく「健康寿命延伸都市・松本」を調査することといたしました。

調査内容（事業概要・特筆すべき点）

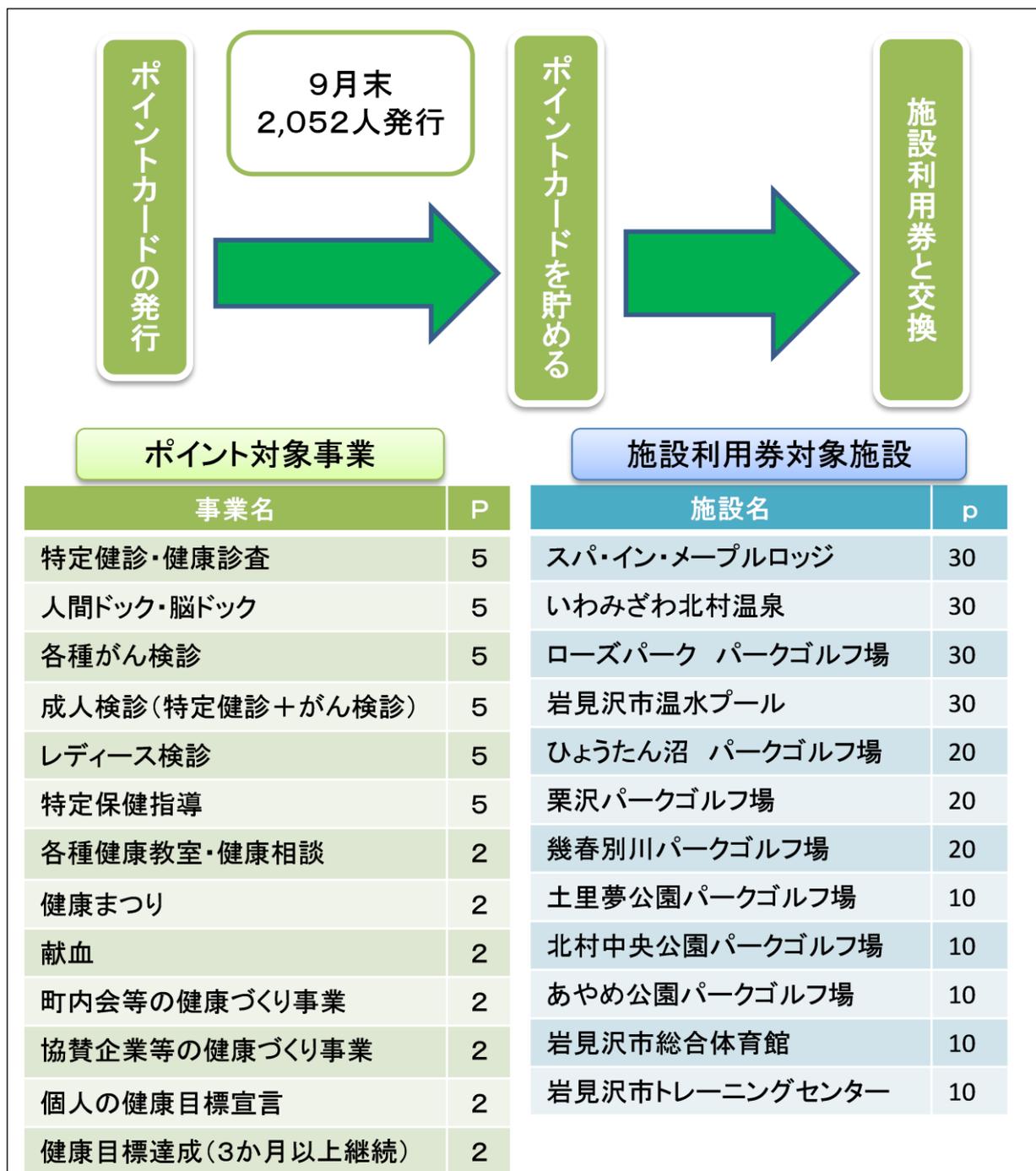
- 1 「健康寿命延伸都市・松本」を宣言し、市政の中心に据え全ての部署での連携がなされている。
 - ① 人の健康
 - ② 生活の健康
 - ③ 地域の健康
 - ④ 環境の健康
 - ⑤ 経済の健康
 - ⑥ 教育・文化の健康
- 2 健康寿命延伸都市の創造は地域が基盤との考え方のもと、保健師50名を地域に配属し、様々なケアを実施している。更に健康づくり推進委員910名が活動している。
- 3 コンビニでの健康相談、生活習慣病予防事業の出前講座など、企業との連携強化による取り組みを行っている。
- 4 こどもの生活習慣改善事業
 - ① 公費による血液検査の実施（小4と中2）
 - ② 食・運動に関する講座の開催
 - ③ 休み時間への運動指導者派遣

調査結果（所感、提言など）

- 1 「健康寿命延伸都市」を宣言することで、市民の健康に対する意識が高まることに加え、市役所内部においての意識共有が図られていると思われる。
- 2 子どものころから健康に対する意識向上を図っている。
- 3 保健師を初め行政が積極的に地域に出て活動している。
- 4 健康講座の開催を企業の都合に合わせて開催するなど、企業に対する協力体制づくりをしている。
- 5 認知症予防対策事業として脳活ポイントプログラムを行っている。

当市においても健康寿命延伸を目指し、健康ポイント事業を開始しました。

今後は市内の企業との連携、ポイントが付加されるメニューの充実とポイントで交換出来る商品の充実を図る事で市民意識の向上と企業の参画意識向上が図られると考えます。



建設常任委員会 他都市調査報告書

秋田県秋田市 「地域住民用小規模雪堆積場事業及び道路除排雪の概要等について」

平成26年10月15日

秋田県横手市 「横手市総合雪対策基本計画及び雪となかよく暮らす条例について」

平成26年10月16日

井幡 修一 委員長

豊岡 義博 副委員長

太田 博之 委員

野尻 清 委員

古石 英仁 委員

山田 靖廣 委員

選 定 理 由

毎年、課題となる雪問題について先進的事例の調査を行うことを目的として調査

- 住宅地内での一般家庭向け雪よせ場確保の事例
- 市民と行政が協働して策定した総合雪対策基本計画の事例
- 克雪ばかりでなく、親雪、利雪などを考慮した事業展開を行っている事例

調 査 内 容

【地域住民用小規模雪堆積場事業】（秋田県秋田市）

- ・住宅地内で概ね 150 m²（約 45 坪）以上の空き地を地域住民用堆雪場として町内会・自治会に無償貸し付けするときに、所定の手続きを行うことで、その土地の固定資産税の一部を減免する。

【道路除排雪の概要】（秋田県秋田市）

- ・その年の降雪量により除排雪経費も数億～数十億円もの開きがある。小規模地域には、小型除雪機の燃料代の補助的なことも行っている。

【総合雪対策基本計画】（秋田県横手市）

- ・高齢化による雪処理の担い手不足などの問題もより深刻となり、道路除排雪を中心にやってきた雪対策のあり方を見直し、行政だけでは限界があるため、地域の力を借りながら自助、共助、公助それぞれの観点で広い視点からの総合的雪対策に取り組むことが必要となり、市民を行政が協働で雪対策に取り組む体制を作り上げる必要があった。

【雪となかよく暮らす条例】（秋田県横手市）

- ・「利雪」、「親雪」、「克雪」をキーワードに、雪をマイナスに考えず、プラス思考で雪となかよく暮らすことのできるまちを目指している。

調査結果

【地域住民用小規模雪堆積場事業】（秋田県秋田市）

- ・視察地では、雪解けも早く、雪割りなどの処理も必要ないなど、地域的な違いもあり、また、固定資産税減免手続きなどの課題もあることと、これまでの岩見沢市独自の対応もあり、そのままの形で岩見沢市での適用は難しいと考えられる。

【道路除排雪の概要】（秋田県秋田市）

- ・岩見沢市と同様に降雪量により除排雪経費もかなりの開きが見られ、それぞれの地域で、毎年、課題となっていることがうかがえる。
- ・近年、介護保険サービス用車両利用のための間口対策など新たな市民ニーズもみられるようになってきている。
- ・道路への雪出しなどの市民のマナーの変化もあるが、除雪、排雪の仕方によっても市民ニーズが多様に変化することから、市民と協働し、克雪に取り組んでいかなければならない。

【総合雪対策基本計画】（秋田県横手市）

- ・岩見沢市では、基本計画の策定まではなされていないが、「総合的雪対策」として対応がなされており、住民にもある程度の周知がなされている。
- ・いずれにしても、行政だけでは限界があり、地域の力を借りながらの自助、共助、公助、それぞれの観点で広い視点からの総合的雪対策に取り組むことが必要とされる。

【雪となかよく暮らす条例】（秋田県横手市）

- ・降雪期においても心豊かな生活を営んでいくためには「克雪」ばかりでなく、「利雪」、「親雪」などの思考も必要。
- ・岩見沢市でも『ドカ雪祭り』など「親雪」にあたる事業もあるが、住民になじみのあるものにするために条例化するということは一考の価値があるものと思われる。

経済常任委員会 他都市調査報告書

愛知県岡崎市 「岡崎ビジネスサポートセンター OKa-Biz」について

平成26年10月7日

篠原 藤雄 委員長 酒井 和子 副委員長 平野 義文 委員
谷口 洋一 委員 牧田 滋昌 委員 増山 宣之 委員

選定理由

空知はかつての石炭景気に沸いた一時代から見ると、隔世の感があり、人口減少の度合いも激減と言っても過言ではありません。同じく岩見沢市は、合併当時9万3千人まで伸びた人口も、残念ながら、人口減少に歯止めが利かず10月現在8万7千人を切りました。

人口の減少は需要の低迷などマクロ経済に大きな影響を及ぼし、それ以上に懸念されているのが、地域経済の維持可能性です。

これまでも地域を活性化しようと、行政をはじめ、多くの識者等があらゆる模索をしてきましたが、やはり人間力・市民力が要ではないでしょうか。いわゆる「よそ者、若者、バカ者」論というものがあります。外部の視点を持ち込むことができる「よそ者」、旧来のやり方にとらわれずにチャレンジする「若者」、周囲の意見に耳を貸さず頑固一徹でものに取り組む「バカ者」です。この方達の力を発揮させる場作りが重要となってきます。

当市においても、地域経済の活性化や雇用創出を図るため、中小企業のニーズや実態を踏まえ、制度の見直しにより振興資金の拡充を図るなど、中小企業の経営安定化と資金の円滑化に努めています。

経済常任委員会としても今の状況を打破し、岩見沢市がより一層の活況を呈していく道を模索していかなければならないと考えています。

そこで、特に中小企業や起業家に光を当て、より輝けるよう応援する産業支援拠点を立ち上げ、先進的に取り組んでいる都市、愛知県岡崎市、岡崎ビジネスサポートセンターOKa-Bizを調査研究することといたしました。

調査内容

①相談

- | | |
|-------------|-----------------------|
| ・ 販路拡大サポート | 売り上げ増への課題解決支援、具体的な提案 |
| ・ 経営サポート | 経営全般に亘るアドバイス |
| ・ 企業・創業サポート | 企業・創業計画、資金計画作成サポート |
| ・ 資金サポート | 融資斡旋、国・県等補助金交付金申請サポート |

②アドバイザー指導

- ・ 相談内容に応じて必要な専門的指導、支援機関へのマッチングを実施

③情報発信

- ・ 中小企業の課題解決及び企業・創業支援に資する情報を収集し発信
- ・ セミナーの開催 定期的に経営支援に関する情報を収集し発信
- ・ 支援制度等の情報の収集・発信

行政機関や金融機関、経営支援団体等が実施するセミナー等のイベントや各種支援制度情報

特に印象的だったのは「携わる人的パワー」が普通ではないことです。まず岐阜で活動をしていた秋元祥治氏を、Oka-Biz のセンター長に招きました。

この秋元祥治氏は若いながらも「まちづくり」の分野では突出したものを持ち、勢いと知識に裏付けされたアクティブなエネルギーを持っておられます。今現在はその経験も大きく増している中で、強力なネットワークと更なるパワーを身につけておられます。

その秋元センター長をトップとして、副センター長に女性が活躍し、その下に商工会議所経由で、それぞれに得意分野を持った中小企業診断士が4名。ITのプロとしてアドバイスできる人が2名の計8名がローテーションで対応するとのこと。また、企画広報コーディネーター、デザインアドバイザー等、しっかりした人材も控えています。

このような優れた人材が本気で相談に答えることで、大きな成果を上げ続けています。

調査結果

このような施設があると、実際に相談したくなるのも事実。もし岩見沢市内にあったら…と過程すると、様々な可能性が広がります。実はこの制度は、先進のf-Biz(富士市産業支援センター)やOka-Bizを参考に国の中小企業庁によって、平成26年度より日本全国47都道府県に1拠点ずつ設置されます。調べてみると、この北海道でも札幌に「北海道よろず支援拠点」があります。

そして、札幌だけではなく各地6箇所の計7箇所に存在している状況です。

愛知県においても中小企業庁による「よろず支援拠点」が存在し、それとは全く別に岡崎市の「Oka-Biz」が存在することから、岩見沢の企業育成という括りの中で、横の連携を含めた提案が出来るような場が現実化すると非常に心強いと感じます。

例えば、岡崎市と岩見沢市では単純計算で4分の1の人口規模であることから、岡崎市のOka-Bizが週4回の開催であれば、岩見沢では週1回の開催でまかなえる可能性があります。

秋元センター長のような非常に優秀な人材を月に2~4回招くことができれば、市内での連携、携わるスタッフの育成を通し、かなり効果的な活動を展開できる可能性もあります。人口減の時代の中で、生産年齢人口層にとって魅力的なまちにするためには雇用が重要な課題なのは言うまでもないこと。

そのためにも健全な企業が育ち、外と勝負できる企業を増やすための本格的な「よろず相談」を受けつけ、様々な実践的アドバイスや市内外のネットワークができていく場所ができると理想的だと感じた次第です。

IV. 参加者からの質問・意見と回答

・建設常任委員会への質問（答弁者：建設常任委員長）

【質問】（秋田市の事例、小規模雪堆積等の報告を受けて）町会で似たようなことをやっており、近隣3、4戸が夏場の草刈りなど約束して空き地に雪捨てをさせてもらっている。空き家も多く放っておけばすぐに傷むが、6月に空き家の適正管理に関する条例ができ、代執行も盛り込まれている。秋田の事例にあるように固定資産税を軽減するなどして生かせないか。

【答弁】11月上旬に建設部と意見交換し、秋田市の事例を参考に岩見沢でも雪の事業を進められないか話し合った。例えば空き家対策では、秋田市は空き地の固定資産税の免除があるが、岩見沢では空き家解体費用をいくらか助成できないか。税の免除ではなく解体費用の補助で進め、使わせてもらうことができないか。いろんな方法を議論している最中で、財政問題もあり難しい問題だが、町会との連携など、何らかの形で空き家対策も絡めた中でうまくいく方法を模索している。

・全体質疑（答弁者：議長）

【質問】先の臨時会で、議会関係の議案があったが、提案理由が省略されそのまま可決された。傍聴している人は、何をどのような理由で提案したのかわからないので、提案理由はきちっとすべき。

【答弁】提案説明の省略については、以前、議案がたくさんある第一回定例会において、昨年までは四、五つ目くらいまで説明して省略していたが、あまりにも不親切ということで今年の第一回定例会ではすべて説明させていただいた。先日の臨時会の案件についても、傍聴者にわかりやすいような方法を考えてまいりたい。

【質問】傍聴席の壁で議員が見えない。

【答弁】財政的に壁を取り払うわけにもいかない。定数22名となり、議席の数から言えば可能かどうかかわからないが、最後列を使用せず、なるべく前方に議席を配置するのも一つの方法かと考える。個人的な考えだが、議員の顔が見えるような議席配置にしていきたい。

【質問】なぜ正副議長は2年で交代するのか。慣習的に第一会派から議長、第二会派から副議長となっているようだが、栗山では立会演説などしている。ここまでは言わないが、慣習で選任されるのは疑問。

【答弁】自治法では任期4年。岩見沢では前期、後期にわかれている。議員数が多かった昔、より多くの議員に…そんなことも加味されての2年交代だったかと思うが、定数が減りだんだんなくなってくるのではないかとも思う。正副議長の任期についても、改革の場が再設置できれば議論したい。

【質問】報告会の内容が、今後どのような形で発表されて、市政に生かされていくのか。

【答弁】議員提案があっても良いと思う。総務では移住定住を中心に報告させていただいたが、学校給食なども見てきた。十分加味して行政に提案したい。我々が見てきた、知り得たことがより生かされるような形で行政に進言してまいりたい。その検証、結果も随時報告する義務もあるのかと思う。

V. アンケート結果

■ 今回の報告会について ■

Q1 皆さまについてお聞かせください。

年代 A 29歳以下 B 30～49歳以下 C 50～69歳以下 D 70歳以上

答え	29歳以下	30～49歳以下	50～69歳以下	70歳以上	無回答
人数	2	3	10	8	0

性別 A 男性 B 女性

答え	男性	女性	無回答
人数	11	2	10

Q2 今回の開催について、どのようにお知りになりましたか。 複数回答あり

A 市議会ホームページ B 市議会だより C 知人 D 新聞など

E その他 ()

答え	ホームページ	議会だより	知人	新聞など	その他	無回答
人数	2	8	3	7	7	0

E その他に記載があったもの

- ・町連から 3
- ・案内文書 2
- ・議員のフェイスブック 2

Q3 参加しようと思ったきっかけは。 複数回答あり

A 市議会に関心がある B 報告内容に興味がある

C その他 ()

答え	市議会に関心がある	報告内容に興味がある	その他	無回答
人数	8	13	3	0

C その他に記載があったもの

- ・調査の結果それがどう生かされるのか重大関心あり
- ・議員の活動や市民への報告に関心がある
- ・初めての試みだから

Q4 参加した感想についてお聞かせください。

今回のテーマ（報告内容）について

A 良い B 普通 C 悪い D その他 ()

答え	良い	普通	悪い	その他	無回答
人数	6	12	1	1	3

D その他に記載があったもの

- ・時間が短いのでアウトラインしか説明されていなかったと思う

C 悪いと答えた方の意見

- ・委員会として、議会としてどのようにしていくかの発表がなかったことが残念

日時の設定について

A 良い B 平日昼間 C 平日夜 D その他 ()

答え	良い	平日昼間	平日夜	その他	無回答
人数	11	0	8	1	3

D その他に記載はなかった

会場の設定について

A 良い B 悪い C その他 ()

答え	良い	悪い	その他	無回答
人数	19	0	0	4

今後の開催について

A 必要 B 必要ない C わからない

答え	必要	必要ない	わからない	無回答
人数	19	1	0	3

Q5 今後、報告会で取り上げてほしいテーマはありますか。

- ・ 市議会内容については、議会報告で配付されていますが、地域における議会報告会を開催し、市民意見を取り込んだなかで、市政策に提案していくような姿勢をお願いします。
- ・ 報告会で取り上げて採用もしくは調査継続となった案件のその後の進捗状況をききたいです。
- ・ 議会報告会～議会での質疑応答の状況
- ・ 中心市街地の活性化（街中居住）に向けた先進地視察をして頂きたい。
- ・ 各常任委員会で行われていることに対する説明。
- ・ 各常任委員会に関わる市政の懸案事項の進捗状況など。

Q6 今回の報告会でお気づきの点や発言できなかったことなどありましたらご記入下さい。

- ・ 参加者を増やすため、各々で開催し参加数の競争をはかる。先ず増やす工夫をし、それをベースで（発表した）上積報告会にしてください。
- ・ 他の自治体の良い所を学んで、生活しやすい地域にしていきたい。
- ・ 雪対策で、地域の雪堆積場であるが、所有地と無償貸し付で、固定資産税の減免について議論。
- ・ 広報。参加者が少ないことは残念。開かれた議会であるためには、参画する市民でなければならないと思います。
- ・ もう少し広報をしっかりとしてほしいです。参加者より議員の方が数が多いのは果たして効果あるのか疑問です。
- ・ 表面的過ぎる傾向がある。統計数値が少ない。
- ・ すべての委員会がなぜ同じ時期に視察に行かれるのでしょうか？
- ・ 他都市への視察は毎年行われているなら、議員提案の議案が出されていると思うが…。
- ・ 発表している間、他議員同士の私語が気になりました。
- ・ 時折り都市人口の発表があったが、全都市人口を調査項目欄に記載しては如何ですか。

- ・ 他市で見えて聞いてきた事の感想のみで、岩見沢市議会として今回の成果を生かし、将来どのようにして行きたいのかが聞けなく残念でした。

■岩見沢市議会について■

Q7 これまでに市議会（本会議・委員会など）を傍聴したことはありますか。

A はい B いいえ

答え	はい	いいえ	無回答
人数	11	11	1

Q8 これまでに市議会だよりを読んだことはありますか。

A はい B いいえ

答え	はい	いいえ	無回答
人数	21	1	1

Q9 定例会開催案内ポスターを見たことはありますか。

A はい B いいえ

答え	はい	いいえ	無回答
人数	13	8	2

Q10 その他、岩見沢市議会へのご意見などありましたらご記入ください。

- ・ 地域に出向いて議会報告会を実施することは考えていないのか。
- ・ 新設条例、新規事業などを中心に議会報告を検討されては如何か。
- ・ それぞれの内容、必要性をお伝え出来れば。
- ・ 民生常任委員会の松本市における視察についてですが、ロコモ対策の一つとして理学療法士が地域に出向くという話がありました。私自身理学療法士として岩見沢市内の病院に勤務しているのですが、岩見沢市内の病院や施設に勤務している理学療法士はおそらく30名程度いると思います。岩見沢市としても理学療法士を地域に出向させる必要性があると思いますので、民生常任委員会としても市の担当部署に働きかけるようにしていただきたいです。
- ・ 会派の離合集散より、このような報告を地道にやることが大事。
- ・ 議員一人一人の視察報告を聞きたい（限度あり、割当て）。
- ・ 視察内容を岩見沢市と比較して発表していた委員会もあったが、他都市の良い点、学ぶ点を発表してほしい。
- ・ 長い間議員を続けている人の視察報告と、これまでどのように市政に役立てるべく、努力してきたのか知りたい。
- ・ この会を開催するのに、もう少し参加者を増やすような努力を続けなくて、止めてしまうようなことがないようにしてもらいたい。動員力を発揮するか、求めるように。
- ・ 今回の試みは、正に議会改革の一端として大変良いものであった。絶対続けてもらいたい。
- ・ 議会議事録をホームページで検索することがあるが、使い勝手がよくない。早急に改善してほしい。
- ・ （民生）時間の制約でポイントだけの発表になっているが、調査をした資料だけでも添付

してくれた方が良かった。

- (民生) 高齢者の移動手段の確保について、もっと研究した方が良い。
- (建設) 雪質が違うので、道内の豪雪地帯の視察研究が良いと思う。倶知安、黒松内、当別 etc.
- 報告だけでなく、そこから何を学び生かしていくのかといったビジョンがないと意味がないです。生かせないなら、生かせないで、どういう理由か、あるいは生かしていくなら、どういう方向性で、市政にコミットしていくのかといった独自性がないと、何のために議論しているのかわかりません。 議員提案、おおいに結構かと思います。
- 各地の議会改革を調べました。いずれも議会を変えることが目的ではありません。議会が変われば市民が変われる。それによってマチが変わる。地方自治の主役である市民にこたえるべきための改革であることを心より願います。
- 議会だよりに市民の声欄の設定はできないか。また、議会について質問に応答することも検討しては如何か。
- 議会開催の案内を市の広報で知らせてほしい。
- 議会場の傍聴席の前を取りのぞいて議員の顔が見えるように早期に実行願う。
- 議会開催日について、たまに新聞でみかけることがあるが、多くの人が新聞で情報を得ることが一番多いと思いますので、新聞社との対応をよろしくお願いします。
- ポスターでの周知を試みたようですが、どうでしたか。
- 地域における議会報告会の開催と市民意見の取り込み等。
- 議会条例の策定。
- 行政に対するチェック等のみではなく、市政策に対する提案等を進めるようにしてほしい。
- 調査研究について、対お金効果を考える。常任委員会の1/2の動きとして、個人的には2年に1回程度。
- 雪堆積場の確保

町会単位で利用できる(空地)利用確保を行政が窓口となり町会で進めれる体制を構築する。

地主との契約、地主にメリットがある施策

夏場は利用者が管理する。そこは人力排雪のみとする(大型車利用は市が認証し、市が排雪に責任を持つ等)

中心街再開発は投資してもムダです。もう死に体ですから何をやってもムダ。なりゆきにまかせるしかありません。中心街の関連者が独自に目覚めてもらうしかありません。世の中なるようにしかありません。

VI. 平成26年他都市調査の調査地及び調査項目一覧

【総務常任委員会】

平成26年10月20日（月）～22日（水）

★①鳥取県鳥取市

「定住促進の取り組み」について

★②京都府南丹市

「定住促進アクションプラン」について

③愛知県清須市

「学校給食」について

【民生常任委員会】

平成26年10月8日（水）～10日（金）

★①長野県松本市

「健康寿命延伸都市・松本の取り組み」について

②岐阜県可児市

「高齢者等に対する地域交通手段の確保」について

③愛知県大府市

「新健康おおぶ21プラン」について

【建設常任委員会】

平成26年10月15日（水）～17日（金）

★①秋田県秋田市

「地域住民用小規模雪堆積場事業及び道路除排雪の概要等」について

★②秋田県横手市

「横手市総合雪対策基本計画及び雪となかよく暮らす条例」について

③岩手県盛岡市

「自転車利用の促進」について

【経済常任委員会】

平成26年10月6日（月）～8日（水）

★①愛知県岡崎市

「岡崎ビジネスサポートセンターOkabiZ」について

②愛知県豊田市

「豊田市低炭素社会モデル地区」について

③愛知県一宮市

「中心市街地活性化（街なか居住の促進）の取り組み」について

※ 報告会では、★印の付いた調査地及び調査項目について報告しました。